

集落情報誌 おおせ物語

平成 20 年 5 月 1 日 第 4 号

発行 / おおせを語る会

大瀬の未来展望 プロジェクト **5** project

平成20年度

が始まります!!

昭和 40 年当時、平田まで含めて人口 327 人、世帯数で 60 戸を数えていた大瀬は、現在、戸数にして 18 戸、人口は 60 数人の小規模集落となりました。実にこの 40 年間で人口は 8 割、世帯数は 7 割の減少という状況で、その当時、上杉藩領において重要な地区であった大瀬から『元気』さえも失われつつあるようにさえ感じられます。

そのような中、今年度白鷹町では、過疎化や高齢化で地域の元気を失いつつある集落を応援するために「白鷹町地域の未来展望事業」という事業を立ち上げ、大瀬地区を町のモデル地区

に応援していくこととなりました。具体的には、地域の現状などをふまえ、いきいきと暮らしていける未来に向けての地域づくりの計画策定や地域づくり活動に対し補助金を交付するという事業になります。

このことを受け、大瀬では今年 1 月からこれまで 3 回の集まりを実施し、大瀬の昔や歴史を話し合ったり、大瀬の魅力や今抱える問題などを話し合ったりしてきましたが、これらをもとに次の 5 つのプロジェクトを実施しながら、未来に向けての取り組みを行っていきたいと考えております。

5 つのプロジェクト …と総括

プロジェクト **1** project

「大瀬の暮らしを元気にプロジェクト」

5 月 7 日 (木) 午後 5 時 30 分～

買物は楽しみの一つです。

同時に人と人とのコミュニケーションも地域づくりのツリ目です。

中山つるや商店とのタイアップで、大瀬らしく楽しい方法をみんなで作ろう!

プロジェクト **4** project

「大瀬が健康でいきいきプロジェクト」

10 月 12 日 (日) (午後)

いきいきとした暮らしには、一人ひとりが健康で元気なことが必要!

ちょっとした軽運動や食べ物など

みんなでお楽しみながら、健康のための勉強をしよう!

大瀬の材料で作る芋煮会も同時開催!!

プロジェクト **5** project

「大瀬の安全・安心を築こうプロジェクト」

12 月 7 日 (日) (午後)

災害は忘れたころにやってくる!!

災害時には初動対応が大事になります。

隣接集落とも連携を取りながら、大瀬の安全と安心を考えよう!

プロジェクト **2** project

「大瀬の昔を語り継ぐプロジェクト」

7 月 6 日 (日) 午前 9 時 (午後)

地区内探検で大瀬の「お宝」や魅力を再発見!!

ワイワイガヤガヤ、みんなでお楽しみにきやかに…。

アドバイザーの先生も交えて、いろいろな話し合いをしよう!!

○雑壇 2 月 1 日 (日) (午後)

1 年間のまとめと

未来展望(案)を地区の方々と考えよう!

プロジェクト **3** project

「大瀬もれ道に写すプロジェクト」

9 月 1 日 <1泊2日> ※希望者・会費制

棚田保全やホタル(火まつい)など、独自の活動を展開している大蔵村「時折」。

大瀬に活かせるものはないものか? 時折の取り組みに学びます!

まずは **5 月 7 日 (木)** です。

みなさんの参加をお待ちしております!!

大瀬の未来展望
プロジェクト **5** project

3月9日(日)開催

大瀬の今を語る

去る3月9日の日曜日、今年3回目となる集会「大瀬の今を語る」が開かれた。集会にあたって、白鷹町の元助役で下山在住の奥山龍雄氏より「最上川について」と題した講演が行われ、大変身近なところからの学習ができた。(内容は下記のとおり) また、集会後段では「大瀬の今を語る」と題し、役場職員の進行にしたがって、参加者全員が大瀬の良いところ、悪いところの確認を行った。

当日は山形新聞の取材などもあり、会場となった大瀬公民館は集まった人たちの熱気に包まれた。

*** 奥山龍雄氏講演「最上川について」 *** (要約)

- 以前は大瀬で材木出しの手伝いをしていた。平田峠からソリで国道まで出す作業だった。
- 昭和30年代まで、最上川は子どもの水遊びの場であった。
- 40年代に入って川離れが進み、川の汚れも目立ってきた。
- 背骨が曲がった魚が泳いでいたり、泥だまりができていたり、汚れによってさらに川離れが進むことになった。
- 昔は最上川を「母なる川」とうたっていたが、そのころから「母なる」ではなくなっていた。
- このたび世界遺産登録への取り組みが始まっているが、大瀬の会合でも、最上川を探り、調べて考える良い機会にしたい。
- 川下地区には多くの堰が残っている。つまり、その一つ一つに歴史があるということ。
- 地元の住んでいる人が「いい所」だと思わない限り、誰も住みたいとは思わない。
- 大瀬はいつできたのだろうか? 800~900年とも言われている。佐野原で縄文早期の遺跡が見つかったので、大瀬もかなり前からできていたと思われる。
- 菖蒲は川の村。最上川の洪水では毎回のようによく水害に遭い、多くの住民を流していった。
- 洪水は肥えた土も同時に運んできた。そのおかげで農作物の生育は良いところだった。
- 菖蒲では、「舟場」とは言わず『陣屋』と言った。
- 西村久左衛門は黒滝の開削に1万7千両を投じたと云われる。人件費にして26万~65万人分という莫大な費用である。
- 現在、西村久左衛門が掘削した箇所を最上川は流れていない。高岡側に迂回して流れている。
- 最上川支流は30ほどあって必ず田に結びつく。そして1つ1つに歴史がある。
- 30年代までは、大瀬・平田は裕福な土地として有名だった。
- 佐野原には切支丹跡地がある。
- 八枚田(ヤンマイダ)では昔1俵半の米を隠した親子が罰せられたところ。
- 荒砥から下山公民館辺りまでは舟引き道が残っている。下流の佐野原・大瀬の部分は法面のところにあっただと思われる。崩れたりしてわからなくなっている。
- 千作から平田までの道は最も古い道であると云われる。
- 自分たちの地域の値打ちは自分たちで決める。そのために昔のことを知り、未来の町の像を描く。

大瀬の良いところ

※数字は獲得ポイント

- ◇ 豊かな自然 24
 - 「自然」：自然が多い/自然が大変きれい
 - 「川・山」：紅葉がきれい/山菜採れる/川あり山あり良いところ/川あり空気良い/目の前に川があり眺めに行く
 - 「水」：水不足なし/水がきれい/空気も大変良い
 - 「自給自足」：生活するには自給自足できる
- ◇ 災害少ない 24
 - 土砂崩れなし
 - 最上川が村の下で水害に合わない
 - 山に囲まれ台風被害が少ない
- ◇ 人
 - 「まとまり」：何事もまとまり良い/まとまり良いあつまり/大瀬存続に住人の心一つ 22
 - 「元気」：年寄りでもみんな元気なところ 23
 - 「お茶飲み」：友達とお茶のみ/みんなで仲良くお茶のみ 18
 - 「近所付き合い」：近所のつきあいが良い 24
 - 「人情」：みんなよい人/人・心の良さ/みんな親切/優しい人ばかり/人のふれあい・友情 12
- ◇ 道路事情
 - 「国道」：国道沿い/家の前が国道/国道で交通の便が良い/小さな道でも舗装になっている 19
 - 「除雪」：除雪が早い/国道近くで除雪が万全 22

大瀬の悪いところ

※数字は獲得ポイント

- ◇ 若者少ない 24
 - 若い人がいない/子どもがいない/若者が定着しない/若い人が減っていく/仕事の都合で時間に余裕ない/区民の平均年齢が高い/若い人が町に出て行く
 - ◇ 雪 24
 - 雪が多い/雪が多くて大変/雪が多くて嫌い
 - ◇ 山・川
 - 「山」：山が近い/日当たりが悪い/手入れがなっていない。木が伸びっぱなし 16
 - 「川」：川の汚れ/最近ちょっときれいになった 1
 - ◇ 交通の便
 - 「バス」：本数が少ない/朝日との接続が悪い 13
 - 「タクシー」：年を取るとバス、タクシーが必要/町からのタクシー代が高い(片道2,800円) 22
 - ◇ 生活の便
 - 「遠い」：町に遠い/店が遠い 11
 - 「移動販売」：移動販売が来なくなった 7
 - 「騒音」：車の音がうるさい/電話の音も聞こえなくなる/大きな車が来るとうるさい 6
 - 「道路」：太平橋付近の道路が悪い/家に行く道がない
 - 「交流」：部落での楽しみの場がない 15
- ・・・私たちはこんなふうに思っています!!